

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



上下は歴史とロマン香る白壁の町

120年に亘り、その歴史を見守ってきた上下分教会

立教180年
8月号

人材育成講習会開催

7・21 祭典後

布教部

布教部(田中隆之部長)は7月21日、中川徳弘先生(本部布教二課長・生駒大教会長)を講師に迎え、大教会月次祭後に「人材育成講習会」を開催。役員・教会長夫妻・布教所長、また、よふぼく・信者ら多数が受講した。

講話趣旨は次の通り。

▼道の将来を担う人材の育成

教祖130年祭神話において真柱様より「130年祭をつとめ終えてこれからの歩み方を思索するとき、何にもまして道の将来を担う人材を育成する必要を強く感じる。特に陽気ぐらし世界建設に立ち働くよふぼくを育てること増やすことに力を入れなければならぬ」とお聞かせいただいたこととに人材育成講習会開催の元がある。育てることと増やすことについて相談したい。そのためにはに、をいかけ、おたすけが大切。



経験を交えながらお話し下さる中川先生

▼自らが信仰の喜びを味わい伝える

本部の学生担当委員会に勤めていたときのこと、仲間が「よふぼくの子供は未信者」だと言っていた。もつと言うと教会長の子供も未信者だということ。おふでさきに

おやこでもふうふのなかもきょうだいもみなめいめいにこころちがうで

と言われるように、皆心が違うので、放っておいたらいけない。意識的に信仰の喜びを伝えることが大切だと思ふ。

私の子どもが小さい頃、一緒にお風呂に入る時に私が、「ありがたいなあ」と言い、子供にも「そうやなあ」と言

わせていた。子どもと共に、自分自身にも感謝を表現する習慣が身につくようになった。

信仰の喜びを伝えるためには、その前提として、伝える者が信仰の喜びを持つている、もしくは求めて通っていること、そのためには、親神様の御恩を御恩と気づき感じることが大切ではないか。

私の場合、42歳の時、海水浴中に海に飛び込んで額を強く打ち、救急車で病院に搬送された。診察の結果、首の骨は折れていないが「後縦靱帯骨化症」と診断され、激痛がしばらく続いたが、1週間ほどで治まった。有難かったと思うと同時に、ない命を助けていただいたとも思った。私の父は、神殿移転建築の最中に末期の胃癌が発見され、奉告祭を勤め終え、42歳で出直した。

神様は「お前も本当は42歳が寿命だった。病気があることを知らせておいたからしつかり通れ。今の通り方では不十分だ。」と仰っておられると思う。現在54歳で父より12年も長く生きさせていたでいるが、誕生日を迎えるごとに助けていただいたという思いと、込められている親心がありがたいという思いがする。

▼分かる様に信仰を伝える努力

話を人材育成にもどすと、学生層の子どもたちは神様の心がわかるようになる年齢だが、逆に言うとなかなか分らない年代とも言える。育成のポイントとは、同世代の意見は聞き入れるので、同世代の者との関わりを持たせる環境に置く。つまり学生生徒修養会高校の部・大学の部への参加が一番の近道ではないかと思う。そこで彼らは道を信仰する仲間存在に気づき、信仰の素晴らしさを実感する。そしてそのような若者の共通点は、彼らの親が皆、信仰熱心だということにも注目しなければならぬ。やはり、育てる者の信仰姿勢が彼らに影響を与えていると言える。

▼人生が変わるような育ての実践

今の旬、おちばで開催される後継者講習会、真柱継承者の大亮様が行委員長を務められる。推進大会の場で大亮様は、「人間というのは人を喜ばす方へ人を助ける方へ心の向きを変えていけば必ず人生が変わっていく。今までもよりも必ず喜んで通ることができると思う。この後継者講習会があったから自分の人生が変わった、と言っても

らせるような講習会にしたいと本気で思っている。」と述べられ、仰るだけでなく、自らも実行されている。

大亮様に「余命宣告を受けた祖母を助けて欲しい」と号泣しながら電話がかかってきた。天理中高時代の同級生、未信仰家庭で神様に祈ることなどしなかった彼の心を、大亮様は嬉しく思い、おぢばがえりを勧められたが、東京在住で多忙な彼はおぢばがえりができなかった。その後、彼自身が若年性白内障になったと連絡があり、大亮様は、「それは絶対に神様のお手引きやから、おぢばに帰っておいで」と仰った。すると彼は高校卒業以来7年ぶりにおぢばに帰ってきた。大亮様は彼と共に、神殿・教祖殿を参拝して、彼の話をしっかりと聞いた後におぢづけを取り次がれた。そして彼に、「日々の生活の中で、言葉や態度を変えることを意識して実践して、人に喜んでもらうように努めさせてもらいよ。近くの教会に参拝して、神様に日々のお礼を申し上げさせてもらいよ。」と言われたそう。

このように、大亮様は仰ったように実践しておられる。

今私たちに与えられた一番大切な御用、この後継者講習会への参加の働き

かけにしっかりと取り組ませていただきたい。

▼人を育てるために自らが育つ

真柱様が人材育成についてお話しくださった時、「人を育てるためにはまず、育てようとする者の成人の努力が欠かれない。自分が育たないと、人は育たない。」いつも仰る。私も(生駒大教会)の世話人先生は、自分が育つ一番はおたすけだと仰り、私もおたすけを通じての自らの成人を実感する。

生駒部内に同級生の会長がいた。当時51歳だった彼は、食道癌と診断され、ステージが3から4の状態です術を受けた。なんとか助かってもらいたい、近隣の部内教会の人々に集まってもらい、三座のおつとめ(座りづとめと十二下りを三回)を真剣に勤めた。遠方の人々には各々の教会で勤めてもらった。手術は成功し、退院できたが、体内に数箇所の転移が見られ、再度入院治療となった。私どもは教会でお願いづとめを勤め、彼の回復を願った。幾度となく三座のおつとめも実行した。ところがその甲斐なく彼は出直した。しかし、その中でも様々な御守護を頂いたと思う。彼が自宅加療していた時

に医者から、「(生理学的な)数値と現状を比べると、奇跡的だ。痛みも少なく、体を動かすことが出来るのは考えられない。」と言われた。もう一つありがたいことに、結婚を前提に付き合っていた彼の彼女が、教会に住み込んで献身的に彼の世話をし、彼は最後まで明るく振る舞うことができた。彼の治療に携わる医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフはその彼らの姿を目の当たりにして大いに感激した。入籍は済ませていたが、式を挙げていない彼らのために、医療スタッフたちが彼の部屋を飾って手作りの結婚式を催してくれた。彼はその間終始にこやかにあったそう。その後、教会で彼の父親の年祭が勤められた日、教祖の前で上級の会長様に誓詞を読んでもらい、結婚式を挙げてもらった。その晩、彼は出直した。彼の妻となった彼女は、彼の跡を継いで現在教会長として勤めてくれている。身上の御守護を頂けず、私自身反省するところが多くある。しかし親神様は多くの御守護をお見せくださったと思う。おたすけを通じて、自分自身が成人させて頂いた。

▼結果を伴う人材育成の努力を!

今は人材育成の旬。おたすけをさせて頂き、その人をおたすけする人に育てる。それを通じて自らも成人する。十年かけて取り組み、140年祭を迎えるときに、御守護頂いたと思えるよう努めさせて頂こう。

こころの詩



笠岡の教友が選ばれ掲載されていますので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽8月13日付「時報歌壇」

・府鮮◎ 奥 繁子 さん

出会いから二十五年の時を経て

おぢばは明かす「被爆者なのよ」

・海松ヶ岡◎ 池田広子 さん

亡き母の自慢の寿司を思い出す

祭ひかえた夏の夕暮れ

▽『陽気』誌8月号「道柳」より転載。

▽秀 詠

・東悠◎ 田林美智子 さん

おやさとおおこし求めて手土産に

▽表紙写真

(上下分教会提供)

「立教180年 こどもおぢばがえり」を 振り返って



「笑顔 ひろがれ! たすけあい」をテーマのもと、7月26日から8月4日までの日程で、「立教180年こどもおぢばがえり」が開催されました。

今年も猛暑の中、国の内外から大勢の子供たちが帰参し、さまざまな行事を通して教えを学び、仲間とともに感謝とたすけあいの心を育みました。

朝のおつとめで真柱様は少年会員に、「一番楽しい時は何をしていますか?」と質問され、会場から、「遊んでいる時、家族と一緒にいる時、ゲームをしている時」と様々な声が出ました。

その上で真柱様は、「一人ひとりの思うことは違います。それは親神様から心を自由に使って良いと与えて下

さったから」とお話し下さり、そこで大事なことは、「どのように心を遣うかが肝心」と述べられ、それは、「自分のことだけを考える心ではなく、周りの人に思いやりの気持ちを持つこと。親神様の思いに添う使い方をする事が大切」とお話し下さいました。

笠岡詰所では、連日、各隊から帰参の子供たちの明るく元気な声があふれました。

朝は婦人会の奥様の、「おはようございませう」の放送から始まり、おつとめ、今日の目標、ラジオ体操とケジメのある日課ははじめとなったようです。

また、毎日夕方5時より、帰参の隊に感謝状が手渡されました。恒例の模擬店は、おなじみのフライ

ドポテト、かき氷、射的、スーパーボールすくい、輪投げに、新メニュー、フルーツポンチが加わり、夕方のひとときを友達同士で楽しんでいました。

KOG(こどもおぢばがえり)の皆さんの、「喜ばさずには帰されん」の心が伝わる詰所行事となりました。

また、むつみ鼓笛隊は、直轄、福山、高屋の3隊が日頃の練習の成果をお供え演奏しました。

今年も連日「真夏日」が続きましたが、大過なくつとめ終えさせて頂くことができました。

こどもおぢばがえりに当たり、大勢の皆様のお力添え、お心寄せをいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

(少年会団長 武内正美)



立教180年(子どもおちばがえり) 詰所内クイズ

(答えは黒塗りの丸英数字)

○小学低学年コース

- ① 天気がよくなつてほしいときつくつてぶらさげるものは?
① ほしがき ② せんたくもの ③ てるてるぼうず
- ② アサガオのつぼみができるまえに花のいろがわかるって知ってた? さてどこを見ればわかるかな?
① くき ② は ③ ね
- ③ アメンボはどうして水の上を歩けるの?
① あしからみずがでているから ② あしにけがはえているから ③ あしのうらがひらべったいから
- ④ 日本のお茶は何色?
① くら ② みどりいろ ③ むらさきいろ
- ⑤ 親神様のお名前は「○○○○」様と申し上げます。○○○○にあてはまる4文字を漢字で書いて下さい。
答) 天理王命
- ⑥ なぞなぞだよ。いつもだれかをやっているさかなはなあに?
① サンマ ② コイ ③ キンギョ
- ⑦ 教祖(おやさま)のお名前は?
答) 中山みき様

○小学高学年コース

- ① なぞなぞだよ。ライオンとゾウとウマが早食い競争。一番になった動物は「ああ、おいしかった」と言つたそうです。さてどの動物が勝つたのかな?
① ライオン ② ゾウ ③ ウマ
- ② みんなもよく知っている『ねこふんじやつた』はロシアではぜんぜんちがう題目なんだ。では、どんなタイトルかな?
① 犬のワルツ ② ネコのワルツ ③ 風のワルツ
- ③ 2メートルおきに木を7本植えているよ。1本目から7本目まで何メートルあるかな?
① 14メートル ② 12メートル ③ 10メートル
- ④ 1ダースは何コ?
① 10コ ② 12コ ③ 14コ
- ⑤ サツマイモとジャガイモ。根っこはどっち?
① サツマイモ ② ジャガイモ ③ 両方とも根っこ
- ⑥ 昭和33年に発売された世界初のインスタントラーメンは?
① チキンラーメン ② チャルメラ ③ 出前一丁 ④ どん兵衛
- ⑦ 「きな粉」は何の粉?
① 小豆 ② 大豆 ③ そらまめ ④ エンドウ豆
- ⑧ ゲゲゲの鬼太郎の像が建つ「水木しげるロード」がある鳥取県の都市は?
① 小松島市 ② 米子市 ③ 倉吉市 ④ 境港市
- ⑨ 真柱様のお名前は?
答) 中山善司様
- ⑩ 世界で一番多い血液型は?
① A型 ② B型 ③ O型 ④ AB型

○中学生コース

- ① すぐく何か欲しいとき、のどから何がでる?
答) 手
- ② 心電図はからだのどこを調べる道具でしょう?
答) 心臓
- ③ 未来へ行ったり過去へ行ったり出来る機械を何というでしょう?
答) タイムマシン
- ④ おすし屋さんで「あがり」というと何が出てくる?
答) お茶
- ⑤ 高級タンスに使われる木材の種類は?
答) 桐
- ⑥ うるう年の1年は何日
答) 366日

⑦ 日本の国民の祝日で1年の最後の祝日は?
A. 体育の日 B. 勤労感謝の日 C. 天皇誕生日 D. 文化の日

⑧ 地動説を唱えたポーランドの天文学者はだれ?
A. コロンブス B. アリストテレス C. ガリレオ・ガリレイ D. コペルニクス

⑨ 国際連合の本部がある都市は?
A. ロサンゼルス B. ジュネーブ C. ニューヨーク D. パリ

⑩ 「私は天理教少年会員です。教えを守り、ひのきしんにはげみ互いにたすけあって、立派な○○○○に育ちます。これは少年会の「ちかい」ですが「○○○○」には何が入るでしょう
答) よふぼく

回答用紙抽選当選者

▼中学生・山口紗良(米府隊)、立神勝太(神村隊)、森本倫(海松ヶ岡隊)、村川瑛子(大江橋隊)、上原真美(笠岡隊)

▼小学高学年・内田舞(吸江隊)博多充乃(神村隊)、野路京介(福芦隊)、平盛来(福昭隊)、石井未来(安那隊)

▼小学低学年・林さえの(錦ヶ原隊)、はらなつみ(簸ノ川隊)、まきやまゆみ(湯田原)、どいみこ(久松隊)、いけだなおき(笠岡隊)

第75回英語講習会開催
8月7日～8日
海外部



ゲストと英会話の一コマ

8月7日8日の両日、大教会に於いて英語講習会が開催されました。それに伴いゲストとしてオーストラリアからマックス・マサナオ・アダチさん(24歳、河原町所属)が6日から来会された。

今年も初日は芳井町の社会福祉協議会の部屋を借りてクラスを持つ予定でしたが、台風5号の影響で雨風の心配と安全面を優先し、大教会で全日程を



閉講式の後で

行う事となった。

日本でのオリンピック開催を3年後に控え、海外からの旅行者が益々増え続けている日本で、英語によるコミュニケーションが必要とされる昨今、今年是小1から久し振りに高校生2人の参加を含む14人が英語ゲーム・ゲストのレクチャー・ハンドスピナー制作・バーベキューを楽しみ、2クラスに分かれて英語スキットのコンテストを行いました。尚スタッフはゲストを含む8人でした。

タンザニア 訪問記②



芳井分教会長夫人
佐藤 和代

▼ヤチマ?孤児院到着

しばらくすると志郎先生とステイブも到着した。玄関先には数人の人たちが話しながらこちらを見ている。私たちが入ろうとすると彼らは快く通してくれました。

予約を入れてくれていたので、中にはすぐに入れるようだ。高さ2メートル幅3メートルくらいの木製の扉がガタガタとスライドされた。

少しずつ子供たちの姿が現れて見えた。

「よかった。今日も遊んでる!」と急な再来を決めた私は、ほっとして周りの様子を確認した。

今日は新しい電気オーブン?の隣に創設者の先生がどっしりと座り、何かを料理していた。ラマダン(断食)中だったので、食べる人と、食べない人がいるようだったが、施設の子たちは食べられるようだ。といっても、朝はビスケット2枚、昼はスープ、夜はウ

ガリ(穀物の粉を湯で練り上げたもの)と何か少し程度らしい。

私たちは挨拶した後、先日渡したお土産に続き、蚊取り線香などを孤児たちに使ってもらうために渡して、今回はひたすら時間まで遊ばせてもらうことにした。

志郎先生も合流したので、先ほどまでの緊張感は薄れて何だかほっとしてその時間を過ごした。

孝君はちよっとしたら子供が常に3、4人まとわりついて離れない状態が30分以上続き汗だく状態だったが、その様子を見た周りの子供たちもさらに寄ってきて、順番待ちをしながら抱っこや肩車やら、ぐるぐる回しなどで時間を過ごした。

わたしはその様子を見てその空気の中にいて、一緒に笑ったり大声を出したりしながらその空気を楽しんだ!

日本で子供たちと遊ぶのと変わりは無い。

子供たちと接している間はほぼ言葉の壁を感じない気がした。何も違わない、そう思う。

そうしているうちに、うちの里子ととても良く似た子を発見した。その子にははたはた視線が行ってしまうた



リュウセイ中央

め、最後の方は勝手に「リュウセイ」とその子と呼んだ。
 何だか、タンザニアに来ているのうちにいる家族のことが気になって仕方ない。「みんな元気だろうか？」私の無事を毎日お願いしてくれている我が子たちに無性に会いたくなかった。帰ったらすっかり感謝の心を伝えよう！言葉で伝えよう！家族みんなに！そう強く感じた。

▼ひかりちゃん

ヤチマ？と聞いていたその孤児院にいた日本人大学生ひかりちゃんは、東京外国語大学の4年生で今休学しているようだ。

毎日近くから通ってきてここで過ごすことを日課としていた。一緒に遊びながら彼女のつぶやきが聞けて、今後の何かの参考になるような気がして、私は彼女の近くに座った。

「この子なんか白内障なのに周りのスタッフは誰も気が付かないんですよ、スタッフもあまり病気について知らないのが通常なんです」彼女は5、6歳くらいの子と手をつなぎ、その子の目の瞳をのぞき込んで教えてくれた。その子の目の中心の部分がビーズのような大きさに白くなっている。

「誰もわからないんだ!!」私はひかりちゃんと同じくその状況に驚いた。この子の親は…この子は…とその子たちの置かれている状況も追加して教えてくれた。

教育の行き届いている日本で生まれて育っている私たちは、家族にも周囲にも、国家にも見捨てられることなく支えてもらっている。しかし当たり前で、その有難さを感じることがあまりな

い。

そうでないこの国の子供たちと触れ合うことで、より一層私たちの日常の有難さを身に染みて感じる時を過ごしている。「帰ったらできることを探そう!」「帰ったら伝えたい。私たちがとても幸せであることを。」

しばらくして施設に二人の女性がやってきた。

この施設をサポートしている団体の人のようだ。この施設の子供たちには一人ひとりにスポンサーが付いているようだ、ただ、少し器量が良かったり、頭が良いとすぐに見つかるが、その反対の場合はなかなかスポンサーが見つからない。今支援してくれる人を探しているという。

そんな中ひかりちゃんは「私と一緒にボランティアに来ているカナダの青年は、ここ最近ここへ来たがらないんです。孝君のように体を張って子供たちと遊んでくれる人がいてくれると本当に助かります。」と孝君が子供たちの要望に合わせて汗だくで遊んでいるのを見ながら、彼女はうれしそうに言った。

「孝君海外に向いてるな、来年まで



ひかりちゃんと

ここで子供たちと一緒に過ごす?」孝君は「いやいやいや、ははは…」といつものように照れていた。そう答えている合間も彼の背中には数人の子供たちが飛ぶように登り背中を奪い合っていた。

▼ヤチマからの帰り道

ヤチマ?からの帰りは志郎さんの道案内も加わり、スタート地点のホテルまで歩いて帰る道のりは説明によるとかなり近いようだ。

孤児院を後にしてすぐに朝通ったバスセンターの通りに出た!

「こんなに早くつけるんだ! なんて遠回りしていたんだろう!」

無駄に過ぎた時間のようなだが、このときこの場所でしかできない大切な思い出となっていたように思う。

何の気なしに歩いていると今朝あった笑顔の素敵なおばさんに再び出会った。

同じ場所でジュースを飲みながら、志郎先生は隣に座る糖尿病のおじさんと話をしていた。

大きな電気関係の会社を退職して、今はのんびりしている彼は大柄な人だった。明日のおさづけを約束した後、

「私たちはタンザニアのTシャツを探している。」と伝えると、このあたりにはないから、笑顔の素敵なおばさんが連れて行ってあげるといふ話に展開してしまった。

「ちよつと待って!! 店を閉めるから」と30分以上待ち、流れてその笑顔の素敵なおばさんのナビでTシャツを探すことになってしまった。

「こんなに親切なタンザニア人がいるんだ! 日本と変わらないね! 大阪のおせっかいなおばちゃんみたいや

ね!」つといいながら、スワヒリ語しか通じない笑顔の彼女についてダラダラ(バス)に乗った。

6百TSだったか? ダラダラに乗るにはお金がいる。握りしめてから彼女の教えてくれたぎゅうぎゅうのダラダラに乗り込んだ! 初めてだ。

座席はとづくにいつぱいで、さらに乗れるだけ乗り込み、乗客の降り降りは微妙にバスが動いているまま飛び乗るような感じ! スリル満点だ! 3人分のバス代を握りしめていると、おばさんは私のも払ってというので、乗務員に3人+おばさんの運賃を支払った。2千4百TS+日本円で160円? くらい支払った。

笑顔のおばさんは、以前私たちも来たことのある、民芸品ばかりのお土産通りみたいなどころへ連れていってくれた。私も何度もこの国へ来たことがあるし、エディナからの支援品の値段も知っているの、そうそう吹っ掛けた値段の商品に手を出すことはなかったのだが…

本場に10倍くらいの値段から交渉しよう、大勢のお店の人たちが周りを取り囲む中、時には交渉し、時には周りに寄る店の人から逃れながら見たい

民芸品を探した。

結局3人ともそれぞれ思うものを交渉して手に入れたのだが、買い物の中は笑顔のおばさんも「これは高すぎる!」とか言いながら私たちを守ってくれていたの、「本場にこの人に次回からも会いたいな!」と人柄に惚れつつもあった。

夕暮れも近づき買い物終了のち笑顔のおばさんは「私はこれから用をして帰るからここで別れる。」と急に身振りで私に示してきた。

「何番のバスに乗るかわからない」というと、教えてくれたのだが…: 同時におばさんの笑顔が日没とともに少しずつ消えていくのがわかった。

おばさんは手にスマホを持ち1万という数字を打ち私に見せた! 直感的に意味が分かった! が間違えであってほしいと気が付かないふりをして見せた。スワヒリ語で訴えながら彼女はずつとしゃべり続けた。

ここから家までバスで帰るからバス代を!! くらいは納得できるが、交渉もしていないのに1万TSは渡したくない。もうすぐお別れだからと思い、お土産で持ってきたバックをお札にと思っていたのに、何だかとても裏切ら

れた気がした。

しかし、ココはタンザニア!! 力強く生き抜くために負けてはいられない。

私は5千と彼女のスマホに打ち直し…: これなら「OK」「1万」はない! と首を振り訴え続けた。

さつきまで笑顔のおばさんだった彼女は、ただのがつしりした日焼けした現地の人にしか見えなくなっていた。

しぶしぶ承諾してくれたようだったので私は彼女に5千TSを渡した。

お金を握った彼女は自分の行く方へすぐさま姿を消した。志郎さんと孝君と言葉もないまま顔を見合わせた。

翌日ステイブにこんなことがあったよ! と言って聞くと、それはここではいたって普通! と案の定言われタンザニアの人たちの「普通」を感じたように思う。

そのあと歩くことの速い志郎先生と孝君の背を追いながら、靴ズレの足を庇いながら、すっかり夕日の沈むダラエスラムの街を歩いてホテルに着いた。

今もなお消えぬその時の靴ズレ跡を見るたびに、この日の6時間を思い出す。

立教百八十年 七月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	役割										講話	祭主		扨者																									
									区分											九月講話		賛者		指図方																							
									おつとめてをどり			地方			坐り勤			前半			後半			九月講話		賛者		指図方																			
今川佐智子	上原順子	虫明好美	中村義太郎	森本忠平	上原志郎	上原浩	菅尾正治	杉原博之	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	浅野明教	岡崎真一	田中隆之	吉岡壽	中島誠治	田林久嗣	中村剛	三島涉	三島弘実	山野弘	谷内美知子	門脇加津	室悦子	武内清明	山田敏教	赤木素志	高木昭祥	内海史郎	吉岡誠一郎	佐藤香苗	内海安子	森本富美子	三島照美	菅尾一美	岡崎繁次	上原繁立	虫本忠善	森本忠善	浅野明教	吉岡壽	森本忠善	浅野明教	吉岡壽
										九月講話			布教推進講習会			九月講話		賛者		指図方		九月講話		賛者		指図方																					

大教会だより

◎本部食堂ひのきしん

自 立教180年7月15日
 至 立教180年7月31日
 新輝豊 杉本裕樹

◎直属ひのきしん特別隊

立教180年7月1日～5日 湯田原 高木昭祥
 立教180年7月6日～10日 久松 中村剛史
 立教180年7月11日～15日 大江橋 村川文夫
 立教180年7月16日～19日 東城 吉谷隆男
 立教180年7月20日～23日 神驛 渡邊裕也
 立教180年8月6日～10日 上下 山野弘実
 立教180年8月11日～16日 木津和 丸山智旬
 立教180年8月17日～20日 上下 山野大地

◎こどもおぢばがえり

詰所受入ひのきしん

- ・東ブロック 金浦 樋上謙二
- ・照陽 中村 初美
- ・西ブロック 美之郷 桑田 恵美子
- ・久松 中村 剛
- ・福山ブロック 福勇 鳥井 悠加
- ・福芦 竹本 裕貴
- ・高屋ブロック 八尋 矢田 哲一
- ・稲倉 森 敬子
- ・島根ブロック 照雲 雑賀 元生
- ・松都 永瀬 妙子
- ・上府ブロック 甲井 山田 信子
- ・上備 田 光 明
- ・他、有志の方々



七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には 人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいたの思召から人間を御創造おつくりされたばかりでなく 火水風の天然自然のお働きを以て御守護下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに陽気ぐらしは人と人との間にある事を知らず 一人一人が幸せを求める余り親子夫婦は元より人と人との間が希薄になり 陽気ぐらしと懸け離れて来つつある事は残念でなりません 日頃私共は 朝夕に御礼申し上げつつ身上事情だすけを通して心の向きを変え陽気ぐらしへと導くべく たすけ一条のご用を努めさせて頂いておりますが 特に今は目前に迫りました子供おぢばがえりに 又学生生徒修養会に一人でも多く連れ帰れるよう精一杯に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 七月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も 一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 御前には暑さ厳しき中にも関わりませず今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が たすけ心の真実を込めて共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めて お礼申し上げる状をご覧下さいませ 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年の子供おぢばがえりも大変暑くなりそうです 帰ってくれる子やひのきしんをしてくれる子が事故・怪我・熱中症等にならないようお連れ通りの程をお願い申し上げます 又本日は祭典に引き続き人材育成講習会を開催させて頂きます 参加者一人一人が育成する立場である事を自覚し 陽気ぐらし実現の志を持って教祖百四十年祭目指して育成の上に邁進させて頂く所存でございます 更には又 火は酷暑に 水は豪雨に 風は暴風になり人々を苦しめていきます 心通りの守護とお聞かせ頂きますので 温みの心潤いの心優しい心の大切さを一人でも多くの人に伝えられるよう たすけ一条に励ませて頂く所存でございます

何卒親神様には 教祖ひながたを胸に暑さ寒さを厭わずたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚一層自由の御守護を賜り 親神様のお働きを知り教祖のたすけに気付いて 共に御恩報じに邁進する人が弥増し 陽気ぐらし実現が早まりますよう御守護お導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます



「夏のこどもおぢばがえり」から帰り、土用の梅干しをした。

「した」と言っても自分がしたのではないので偉そうなことは言えないが、天気予報は晴れで降水確率も低かった。ところが昼頃、俄かに空が暗くなり雷鳴がとどろいた。慌てて干した梅を取り入れた途端、大粒の雨が降り出した。危機一髪であった。土用とは四立(立春、立夏、立秋、立冬)の前、18日から19日間のことで、土用干しの効果はネットから知恵を拝借すると『・太陽の光と熱の殺菌作用 ・余分な水分を蒸発させ保存性を高める ・日差しと夜露を交互に当てて皮と果肉を柔らかくするというもの』だそうである。それなのに雨に当たってしまったのでは、全くの逆効果でカビの原因ともなるのだ。油断禁物、改めて「心を引き締めなければいけないな」と、思った気だるい夏の午後だった。